

平成 31 年 3 月 6 日

赤井委員

先ほど、18 ページで説明がありました、持続可能な経済に向けた企業誘致の施策についてということで伺いたいと思います。

ここにもありますように、インベスト神奈川、インベスト神奈川 2 n d ステップ、そして、セレクト神奈川 100 と、こういう形で、平成 16 年からずっとやってきたわけですが、この経済効果、先ほど先行会派でも話がありました、やはり、県内企業への発注額にしても、すごく落ちてきていると言うと語弊があるかもしれませんが、大きく下がってきています。これは、様々な要因があると思います。

やはり、インベスト神奈川を、最初に打ち出したときに、それなりの大企業さんが、これはということで打ち出したから、金額的に行ったのかもしれないのですが、それにしても、経済的効果の中にある、インベスト神奈川、最初は 80 件、5 兆円、県内企業へは 2 兆 3,000 億円。2 n d ステップでは 91 件、1 兆 350 億円、県内へは 3,189 億円。セレクト神奈川 100 では 78 件で 1,985 億円。これを各件数ごとに見ていきますと、インベスト神奈川のときには 1 件当たり約 750 億円、2 n d ステップになると約 100 億円、セレクト 100 になると約 25 億円と、極端に下がってきています。さらに、県内にしても、インベストのときは約 300 億円、2 n d ステップになると約 35 億円、セレクト神奈川 100 になると 12 億円ということで、7分の 1、8分の 1、さらにはセレクト神奈川 100 になると 30分の 1、24分の 1 と非常に下がっています。そういう意味では、これから、これが伸びたという形ですが、これから先にこういうような企業誘致の推進ということを神奈川県で考えたとして、もっと下がってくるのかなという危惧をするのですけれど、この辺について、先ほど説明はあったのですが、もう一度、なぜこんなに少なくなってきたのかという点についての御説明をお願いいたします。

企業誘致・国際ビジネス課長

経済的効果につきましては、その企業さんが立地をされてからの累計で数字を積み上げております。インベスト神奈川は、平成 16 年度から始まった施策ですので、その当初に立地をした企業は、もう 10 年以上操業されているという状況です。その 10 年分の数字を積み上げた数字をここに記載しております。2 n d ステップについては、平成 22 年度から始めた施策ですので、インベストと比べると 6 年遅れでスタートをしているということになります。さらに、セレクトにつきましては 78 件認定をしておりますが、まだ約半数は操業が始まっていない、建設中というところが多くございますので、そういうこともあって、数字としては、まだ伸びておりませんが、これから数字は積み上がってくるものと考えております。

赤井委員

先ほど先行会派から話がありました、また、今回、セレクト神奈川 100 の誘致実績等についての発表、一覧が出ておりますが、やはり、横浜、川崎方面に

偏在していると思うのです。特にまた、川崎は川崎で、様々な手をいろいろと打っています。そういうところに、神奈川県が乗っかってしまって、いろいろな形ができてきているのかなとも思うのですが、先ほど来、話がありました、私も住んでいる、特に県西部方面というのは、ほとんど、今回、セレクト 100 の中に 2 社ほど入っておりますが、非常に、まだまだ少ない。確かに企業誘致できる場所がないのかもしれないのですが、場所は、逆に言うと土地はいくらでもあるのですが、企業がなかなか来ないというような点があります。この辺については、先ほど、民間企業から、いろいろと相談を受けるという話もありましたが、もう少し何か打つ手はないのかと思うのですが、どのように考えておられますか。

企業誘致・国際ビジネス課長

まず、立地の傾向としては、横浜、川崎に偏っているということ、それから、圏央道が開通したという効果もあると思いますが、県央、湘南でも、それに次ぐ立地が進んでいるという状況はございます。一方で、やはり、横須賀・三浦地域と県西地域の立地の件数が少ないというのは、データの上でも明らかになっております。

県内の多くの市町村と一緒に、誘致のための協議会をつくってございまして、例えば、その中で、重点的なプロジェクトを幾つか指定をしている中で、横須賀・三浦のプロジェクトですとか、県西地域のプロジェクトも、重点プロジェクトに位置付けて、企業さんにはパンフレットを持って行きながら、いろいろ営業をかけているということはございますが、なかなかそこを選んでいただくというところまでではないというのが実情です。

赤井委員

神奈川県は、例の SDG s 未来都市ということで、また、自治体 SDG s モデル事業ということで、47 都道府県でただ一つ入ったということで、SDG s の先進県を目指して、環境・社会・経済という、この三つの三本柱をしっかりと回して行くということで、神奈川 SDG s の取組方針というものも、確かつくったと思います。その中にも、ちょうど、SDG s のゴールの 9 番目の、産業と技術革新の基盤をつくろうという、こういう点が、ゴールの 9 にあると思います。そういう意味では、神奈川の SDG s の取組方針も、この方針の働き掛け、方針があるということで、今後、企業誘致に当たって、神奈川県としては、そういう方針があるのだと、ここら辺についてのアピールは、これまではなかったと思うのですが、今後、その辺についてはお考えがありますか。

企業誘致・国際ビジネス課長

企業活動と SDG s の関係で言いますと、やはり、持続的な経済活動、持続可能な産業化というところで、本来、業務で一番貢献していただくところが、SDG s の企業の貢献だと考えております。これまで、企業誘致の中で、SDG s ということは、正直、企業さんへのアピールはしてきたことはございませんが、神奈川の魅力といいますか、神奈川の打ち出しの一つとして、SDG s を、今、大きく打ち出しておりますので、企業さんに働き掛ける際にも、SDG s は、キーワードの一つとして、今後、使っていきたいとは思っております。

## 赤井委員

同じく、企業誘致において、今回、雇用問題という点もありましたが、特にジェンダー、それから、女性の雇用について、また、障害者の雇用についてという意味では、やはり、SDGsのゴールの5番目に、ジェンダーの平等を達成して、全ての女性と女児の、子どものエンパワーメントを図るというようなことがゴールの5番にもあります。そういう意味では、女性とか障害者、性差による雇用の差別、これを受けないようにするという点が、大きな、これからのSDGsの取組の一つだと思うのですが、そういう意味では、同じように企業誘致に当たって、本当はアピールして、もっと来てもらわないといけないのですが、それを止めてしまうことにもなるのかもしれないが、神奈川というのは、それだけハードルが高いというとおかしいかもしれませんが、すごく高いのだと、SDGsに対してしっかりと取り組んでいるのだという観点、これも必要ではないかと思いますが、その辺についてはどうでしょうか。

## 企業誘致・国際ビジネス課長

まず、我々の企業誘致施策の中でも、今、御指摘のありました、女性の登用ですとか障害者雇用といった、SDGsの視点は取り入れております。現在のセレクト神奈川の認定要綱におきましても、法定数以上の障害者の雇用ですとか、社内での女性社員の積極的な登用を努力義務に位置付けております。また、これから、更に企業への働き掛けということですが、神奈川県が強みとは、やはり、全国的にも優れた企業がたくさん集積しているところにあると思いますので、こうした企業は、やはり、通常の企業よりは、社会的責任も大きなものを果たしていただく必要があると思いますので、そういうところは、企業と一緒に考えていきたいと思っております。

## 赤井委員

また、同じく、投資の促進という点についても、今回の取組方針の中に、企業等への社会的投資の促進を図ると、こういう点もうたわれています。そして、それを持続的な取組につなげていくというふうにも、この取組支援方針の中にも、うたっています。そういう意味では、誘致をする企業と同時に、既存の企業に対しても、今回、企業誘致という話ですが、そういう意味でも、しっかりと、県の言っている取組指針に沿って頑張っている企業に対して、後押しをするという意味では、今回のSDGsの取組指針を、産業をしっかりと振興させるという意味では、後押しをする必要があると思うのですが、現在、考えてられている、その辺についての内容は何かありましたらお話をください。

## 企業誘致・国際ビジネス課長

御指摘のとおり、持続可能な経済のエンジンを回すという意味では、外から企業を呼んでくるだけではなく、県内の既存企業や、新たに立地した企業が、再投資をして競争力を維持、強化していただくということも、非常に重要と考えております。現行のセレクト神奈川100では、県内企業による再投資に関して、不動産取得税の軽減とか低利融資の支援を行っております。ただ、補助金につきましては、現行のセレクトでは、県外・国外から誘致する企業のみを対象としております。この点につきましては、次の新しい企業誘致施策では、この状態でよいのかということを含めて、検討してまいりたいと思っております。

## 赤井委員

既存の企業も、やはり、そういう意味では、しっかりと頑張っていきたいと思っていますので、そういう点でも、SDGsにしっかりと取り組んでいる企業等についての後押しを、しっかりやってもらいたいと思います。そして、今回、神奈川県は、県として、内閣府に、未来都市ということで選定されるよう、アピールしている内容の中には、経済面では、未病産業の振興など持続的な経済のエンジンを回す取組、こういうようなことを一層強化する、こういうふうにもうたっております。これを命題にして、内閣府の方から、未来都市として選定をされたと聞いております。そういう点では、この未病産業の振興、さらには、何点かの産業について、神奈川県としては、具体的に提案しています。例えば、マイクロプラスチック問題への取組、そして、そのためには、新素材の開発と新たな産業、こういう点が、まず第一点。それから、二点目には、健康長寿に向けた未病改善という点で、健康を支える未病産業の振興。三点目に、エネルギーの地産地消、これは再生エネルギーの新技術の開発。産業振興という点では、この三つが、内閣府に提案をして、そして今回、昨年ですか、未来都市に選定されたと思うのです。そういう点では、産業振興として、大きく、神奈川県として打ち出しをした、三つのポイントについて、2030年までに目指すものとして、バックキャストिंगですから、2030年にこの三つについてどういうふうにしておけばいいのかという点がまずあって、そこからバックしてくるというのが、このSDGsの考え方ですから、今から積み上げていくというのではなく、そこら辺についての考え方、今すぐに、この三つ、何があると言われてもなかなか難しいかもしれませんが、そういう意味での具体的なアクション、県として先行的に取り組んでいく必要があると思うのですが、その辺についてのお考えを聞かせてください。

## 企業誘致・国際ビジネス課長

現行のセレクト神奈川100におきましても、神奈川県の経済や産業を将来的にわたって成長させていくという視点で、支援の対象とする産業分野を限っております。成長産業、先進産業というふうに限っております。その中で、今、御指摘をいただきました、例えば、プラスチックで言えば先進素材だとか、未病関連の産業、それから、エネルギー、この三つにつきまして、対象となる八つの産業分野の中の三つとして指定をしております。今後の企業立地施策においても、やはり、そういう、成長性、先進性というのは大事にしていく必要があると思っております。その産業分野を基本的には創出をしていきたいと思っております。そういうものをできるだけ誘致して、さらには再投資を支援して、そういう産業を伸ばしていくところに、企業誘致施策も貢献できたらと考えています。

## 赤井委員

企業の誘致、神奈川県内でも偏在をしている、その中であって、圏央道ができて、ロボットの産業特区、この特区を中心として様々な企業が入ってはきています。そういうところに、今、話がありました、プラスチック問題、健康長寿、未病産業、そして、再生エネルギーの新技術、こういう点を、しっかりと神奈川県として取り組んでいるのだというものを、旗を掲げながら企業を全国

に、そして全世界に発信して、新たな企業誘致に取り組んでもらいたいと要望して終わります。